

接客、清掃 ひたむきに

県内の特別支援高等部生徒 179人が検定・発表会



飲食店を想定した接客サービス技能検定に臨む生徒＝20日、青森市のマエダアリーナ

県教育委員会などは20日、青森市のマエダアリーナで、県内の特別支援学校高等部の生徒を対象にした「技能検定・発表会」を開

いた。13校から179人が参加し、就労に生かせる作業技術や興味のあるテーマの発表など日頃の学習成果を發揮した。

検定・発表会は、特別支援学校の全ての生徒が夢や志を持ってチャレンジし、地域や社会に認められる機会をつくることを目的に開催している。

達成度に応じて1～10級を認定する職業技能部門は清掃、接客サービス部門で審査が行われた。県内のビルメンテナンス会社やホテルの関係者が審査員を務め、生徒の丁寧な言葉遣いや対応など習熟度を見極めた。接客サービス分野では、生徒が2人1組の客を席に

案内し、飲み物の注文を取って提供するなど、緊張した表情で臨んだ。

清掃分野応用コースの会場では四方を低い板で囲み、部屋を模した場所を生徒が床のから拭き、水拭き、テーブル拭きの一連の作業を一人でこなした。

接客サービス分野に挑戦した、青森第二高等養護学校2年の佐藤愛夢さんは「緊張したが、1級を取るぞ!という思いで笑顔を意識して取り組んだ。練習の成果が出せたので自分の中

では99点」と充実した表情を見せた。森田養護学校高等部1年の出町唯斗さんは清掃分野応用コースに出場し「水拭きのモップをかけた部分を踏まないように足元に注意した。来年も挑戦したい」と話した。

同日はこのほか、ダンスなどを披露するパフォーマンス分野、自分の考えと学習成果を発表するプレゼンテーション、学習活動を紹介する展示もあった。PC入力部門は各学校で事前実施した。(鳥谷部知子)

この画像は当該ページに限って
東奥日報社が利用を許諾したものです。